

事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年4月20日予定

(%) 事業所名 吹田市立こども発達支援センター杉の子学園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	81	19	・ホールの調整を行いどのクラスも使えるようにしている。・グループ保育、パーティーで環境整理	小集団療育時の部屋の確保
	2	職員の配置数は適切である	81	19	・環境や活動内容によって大人の配置を工夫している。	保育士・看護師の不足により、病欠等の代替が必要な時の人員確保が難しい。子供に関わる連携やアウトリーチ業務を行えるような体制づくり
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100	0	・写真や絵カード・マークを使って視覚支援を行っている。子供の特性によって安全な環境を整備。月に1回の安全点検。会議や専門職のアドバイスを受けて環境を整えている。	トイレの床が冷たいなど改善したい点はある。限られた予算だが工夫や優先度を考えていく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100	0	専門職と話をしながら、遊びの設定やいすや机、動線を整えている	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	70	19	日々クラスの療育を振り返り、今後の療育について話し合っている。園運営、行事の振り返りを行っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100		一保護者会とも連携して要望を聞き園の状況を伝えている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100	0		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	91	8		機会があるときは積極的に園の状況を見もらう。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100	0	・専門職による研修を計画的に行っている・専門職の園内研修が充実して学びになる。年間で研修の計画を立て行っている。保育幼稚園室の研修や、外部の研修にも参加している。	20講座研修や研究会など出張の時に遅れて出席になるので参加できる体制を作っていく
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100	0	専門職と連携し子供をアセスメントしている。・保護者との懇談や交流会等ニーズが聞ける場を作っている	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100	0	・アセスメントシートを利用。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100	0		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100	0		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100	0	日々の療育をクラスで話し合い決定している。・担当OT、ST、心理の助言を聞きながら立案している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100	0		
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成している	65	0		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100	0	前日の夕方や当日の朝にクラス内で活動内容を確認している	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100	0	当日中にその日の療育を振り返り活動内容や子どもの姿を共有している	会議、研修で3時以降人がそろいにくいのが、バス当番の工夫や、後で聞いて共有するなど工夫していく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100	0	当日中に担当を決めて記録	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100	0	・療育会議でモニタリングを行っている ・個人懇談3回療育会議2回クラスで児の姿を振り返りしている。	専門職との情報共有の時間を意識して持っていく
	関係機関や保護者との連携関係機関や	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100	0	
22		母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	89	0	関係機関連絡会を持ち情報共有を行っている。母子保健からの紹介、園見学を行っている。	
23		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	78	10	保護者を通して連携を行っている	
24		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	78	10	主治医の指示書に基づいてケアをしている・保護者を通じて療育においての留意事項などを確認するなど連携してきた。	
25		移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	76	14	保護者を通じて療育内容を連携している。杉の子での療育を知ってもらうために保育園等の職員が見学に来たり、杉の子の職員も見学に行き他の施設の様子を知る機会を作っている。	情報共有や連携をさらに密にとれるよう積極的に関わりを作っていく。
26		移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	89	0	学校見学に職員も参加したり、支援学校の職員が見学実習に来たりして連携をしている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者との連携	27	89	11	他の事業所見学に行っている。・モニタリングで連携	
	28	92	0	保育園交流を行い相互に行き来している。今年度から交流が再開してもよかった。→保育幼稚園室を通して交流を進めている。年間計画を立て交流を行い次年度につなげている。	コロナで交流ができていなかったが今年度は取り組みよかった。今年度の反省振り返りを行い次年度もスムーズに行えるようにしていく。いろんな園と交流ができるように進めていく
	29	78	0		開催時は積極的に参加する。
	30	100	0	日々の連絡帳や交流会、懇談会等で子供の姿を共有している。・ノートや皿等でやりとりしている。	
	31	92	0	今年度から保護者が参加しやすいよう、見守りも行き、年に2回のペアレントプログラムを行っている。	年間の予定や保護者の感想を伝えて参加の声をかけていく。
保護者への説明責任等	32	89	0	重要事項説明書、入園のしおりを使い、入所前面接や入園式で伝えている。	保護者もわかりやすいよう伝えていく工夫をする。
	33	89	0	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	年3回個人懇談
	34	100	0	定期的な、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	
	35	100	0	秋祭りや合同保護者交流会等を連携して行っている。・保育参加日に交流会等で保護者動詞のつながりを意識して進めている。	R5年度保護者会主催で他クラスとの合同交流会を行い好評だった。コロナ渦も落ち着いたので、園のいろんな保護者が交流できる場を考えていく。
	36	100	0	悩みを持った家庭に対して専門職と連携し心理相談→STへとつなげた。相談支援員やセンターの地域支援員にも相談をしている。	
	37	78	10	園だより、クラスだより、誕生会だより等で伝えている。	
	38	100	0	個人情報取扱いに十分注意している	毎年市の研修を受けている。
	39	100	0	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	保護者と個別に丁寧に話す機会を持つ。視覚支援を使っている。
	40	59	18	社会福祉講座のお知らせ・周年行事で卒園児参加の呼びかけ。行事の来賓参加	地域福祉講座の開催・行事来賓。地域に開かれた秋祭りは再会できていないが安全体制の整備を考えていく必要がある。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100	0	不審者対応の訓練やAED使用、人個々級の研修をしている。	行方不明の時の訓練も必要・現マニュアルが現状に合っているのか検討してマニュアルの改訂も行っている
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100	0	月に一回の火災の避難訓練と地震、センターの合同訓練を行っている。	センターの安全計画を作成
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100	0	4月に職員全体で確認している・全体会議で把握しバス添乗ファイルにも状況をのせている。発作時の職員の動きを訓練している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100	0	保護者とアレルギー会議を持ち確認している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100	0	ヒヤリハットがあると報告書を作成し朝会で共有している	ヒヤリハット後はその日に園全体で報告の時間を作っていく
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100	0	虐待防止の職員研修を行っている。センターの虐待防止委員会に職員もメンバーとして入りセンターでの研修を行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	92	8	やむを得ず必要な場合は、専門職と共に園内で検討をして保護者と話をして短期間の計画を設定し見直しをしながら進めている。	全体で保護者に確認はしているが、長期に必要と考えられる場合は支援計画に記載していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。